

黒岩探訪

たんぼう

19

KUROIWA
くろいわ

辻の

みちしるべ
道標
どうひょう

登美遠可

この字を読める
でしょうか？「と
みおか」と読みま
す。

今回は地域の中で「辻」と呼ばれて
いる所に建つ道しるべを取り上げ
ます。(左の写真)場所は、下黒岩の
信号の脇です。5月に三年生と社会
科の地域探検の折、「ここに道しるべ
があるよ」と案内しましたが、「あん
なか」以外読めずにいました。

権者の了解を
得て詳しく
調べてみた
読み方を変
え、市立美術館
の桜井館長
さんのお力
添えをいた
だきました。



下黒岩信号脇の道しるべ

いそえふ

あんなか

あんなか

明治廿九年十月建

藤岡町 栗原
富三堂 同金

以多者奈

と書いてあります。

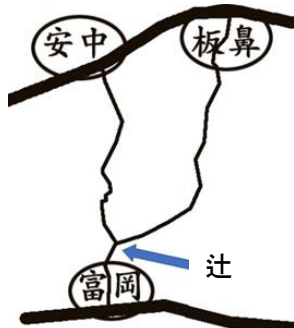
道しるべは四角柱で右図の字が彫
られています。図中右は変体仮名で
つまり「いたはな」板鼻です。そ
の左面には文頭の字の「とみおか」
富岡」とあり、その左は変体仮名で

安无奈加

と書いてあります。

「あんななか」安中」です。おそらく、
「あんななか」と「いたはな」の下に
はもう一文字「道」があると思われ
ます。「とみおか」の下は字は分か
りません。残る一面には建立年月と建
立者が書いてあります。「明治29年

現 国道18号線
江戸時代 中仙道



現 国道254号線

* 変体仮名

明治33年の小学校令改正以降使用されなくなった平仮名(人名等にはその後使用された。)

10月建 藤岡町・富三堂 栗原同金「まで読めます。下は
埋まっています。建立者は藤岡町
と富岡町?に縁のある「藤三堂」と
いう屋号らしきものをもつ「栗原
○」という方と同じく「栗原金○○」
○という名前の二人と想像できます。
道しるべが建つということは、交
通の要衝であるという印です。この
道しるべは明治時代ですが、それ以
前にもあったかもしれせん。江戸
時代に抜ける場合、宿場町の板鼻か安中
を目指すことになりました。下黒岩で
方向を間違わないためにここに道し
るべがあることは重要だったと思わ
れます。建てた者が地元の方でない
ということも意味があります。それ
だけ、人の往来があつたという証
になるかと思ひます。(なお、現在の
道しるべの向きと実際の方向は移設
により合っています。)
ここより西の芹田には、目立つ物
ではありませんが、江戸時代の道し
るべもあります。後で紹介したいと
思います。